

高層商業ビルと
100年の森、
どちらが必要ですか？

GAI-EN FUTURE

外苑
フューチャー

001

神宮外苑の
未来を考える有志
発行

神宮外苑
再開発の
問題点



イチョウ並木が枯れて
木もれ日が
消えるかもしれない



高さ180mと190mの
超高層ビルの出現で
景観が破壊される



神宮球場は移転建て替えし、
日が当たらず、
ビル風が吹く球場に



建国記念の森に
ラグビー場建設
樹木伐採で森は消滅



都市計画公園の指定を
一部削除、事業者主導の
商業施設やビル建設へ



Illustration by Yo HOSONAWADA

「どうして、片側だけ枯れているの？」

数十年後。取り戻すことができない風景を目の当たりにするかもしれません。
子どもたちの世代に美しい風景を守り伝えていくために、今、声を上げなくては！

いつのまにか事業が進められている「神宮外苑まちづくり」プロジェクト その全ぼうをあなたは知っていますか？

『樹木1000本が伐採危機…神宮外苑、東京五輪で規制緩和「開発優先では」日本イコモスが都へ見直し提言』という記事が掲載されたのは『東京新聞』(TOKYO Web 2022年2月8日)。

神宮外苑は1926年の造営以降、**日本初の風致地区**として景観が守られてきました。しかし、2021年開催の東京五輪のメイン会場として国立競技場を建て替える際に、制が緩和され、開発が本格化。今回の神宮外苑再開発は、三井不動産、明治神宮、日本スポーツ振興センター、伊藤忠商事が事業者ですが、神宮球場と秩父宮ラグビー場の建て替えに加えて、商業施設やオフィスが入る高さ190、185、80mの3つの**高層ビル建設**が計画されているのです。

超高層ビルで神宮外苑の景観は損なわれ、強いビル風が吹き、日差しは大きく遮られてしまいます。さらに、開発による**樹木の伐採**で環境も破壊されてしまうのです。

神宮外苑は国民の寄付と献木による近代初の都市公園です。ボランティアが造成工事にあたり、約3000本もの樹木を献木。なかには樹齢100年級のクスノキやケヤキなどの大木も多く含まれています。にもかかわらず、再開発エリアにある約1900本のうちの半数近くが伐採される計画で、100年の樹木も失われてしまうのです。

さらに、今回の再開発では**公園の面積が3.4ヘクタール削除**され、高層ビルに。削られた公園分の代替地となる新公園は補填されません。あきらかに「開発優先」といわざるをえません。

都が再開発の詳細を公表したのは2021年12月。縦覧期間は**わずか2週間**。わたしたちが「知らないあいだに」計画が進行してしまっています。

いま、わたしたちはこの暴力的な再開発の大幅な変更を要求し、神宮外苑の景観と、歴史的遺産でもある**美しいイチョウ並木**を守らなくてはなりません。



このままでは、左側のイチョウ並木の真裏に球場が建ってしまう。

取り返しがつかなくなる前に、みなさんの力をかしてください！



イチョウ並木と「100年の森」は破壊されようとしている

出典/東京都都市整備局

再開発で神宮外苑が危機となる

5つの問題点

問題点 1

イチョウ並木の危機 黄金のトンネルは消える

問題点 2

超高層ビル出現 景観が破壊される

問題点 3

神宮球場は移転してビル風と日陰の球場に

問題点 4

建国記念の森は消滅して、ラグビー場に

問題点 5

100年の近代都市公園が商業施設と商業ビルに



光に輝くイチョウ並木は失われてしまう

再開発では西側イチョウ並木の8mの近距離に、高さ20mの神宮球場が新設され、日差しにきらめく樹々の風景は失われる。地下40mに及ぶ杭の施工は、イチョウの根を傷つけ、水系を断ち、生育の阻害が懸念される。すでに数本のイチョウに枯損が見られ、これ以上の負荷がかかるのを避けなければならない。緊急の対策が求められている。



球場のフェンスはほぼイチョウの高さ、並木の間に。地下にのびる根にも影響が。



営利目的の商業施設をだれが望んでいるのか

神宮外苑は自然的景観の保全を目的とする風致地区として指定され、守られてきた。また、高さ15mを超える建物を建てられないなど開発には規制がかけられていた。だが、東京五輪の国立競技場建設のために都は高さ制限を80mへ規制緩和。容積移転し、190mの超高層ビルの建設を可能にしてしまった。収益重視の事業者の思惑に、国民が献木、育てた歴史的遺産が損なわれようとしている。



伊藤忠商事ビルは建替えて現在の2倍の高さに。



日が当たらず、ビル風が吹く球場でいいの？

新設される神宮球場は超高層ビルに囲まれた立地。日の当たらない球場には強いビル風が吹きつける。外野スタンドの一部は削られる。6大学野球の聖地として愛され、緑に囲まれ、青空の抜ける神宮球場は完成度の低い計画に侵されようとしている。



ビル風にさらされる球場で、野球を楽しむことができるのだろうか。



先人が育てた森をつぶしてなぜ、ラグビー場を移転？

新ラグビー場建設予定地は建国記念の森。森の3分の2の敷地を要する計画のため、樹々の伐採と建設により森は全滅するといわれている。再開発はスポーツ施設の間にいくつもの同じような用途の高層ビルを無理やり詰め込んだ計画。現在のラグビー場は耐震補修・改修工事で十分使用できると多くの専門家が提言している。なぜ歴史ある森を破壊して新設しなくてはならないのか。



2019年に国立競技場が新設されたのに、なぜ新たなラグビー場が必要なのか。

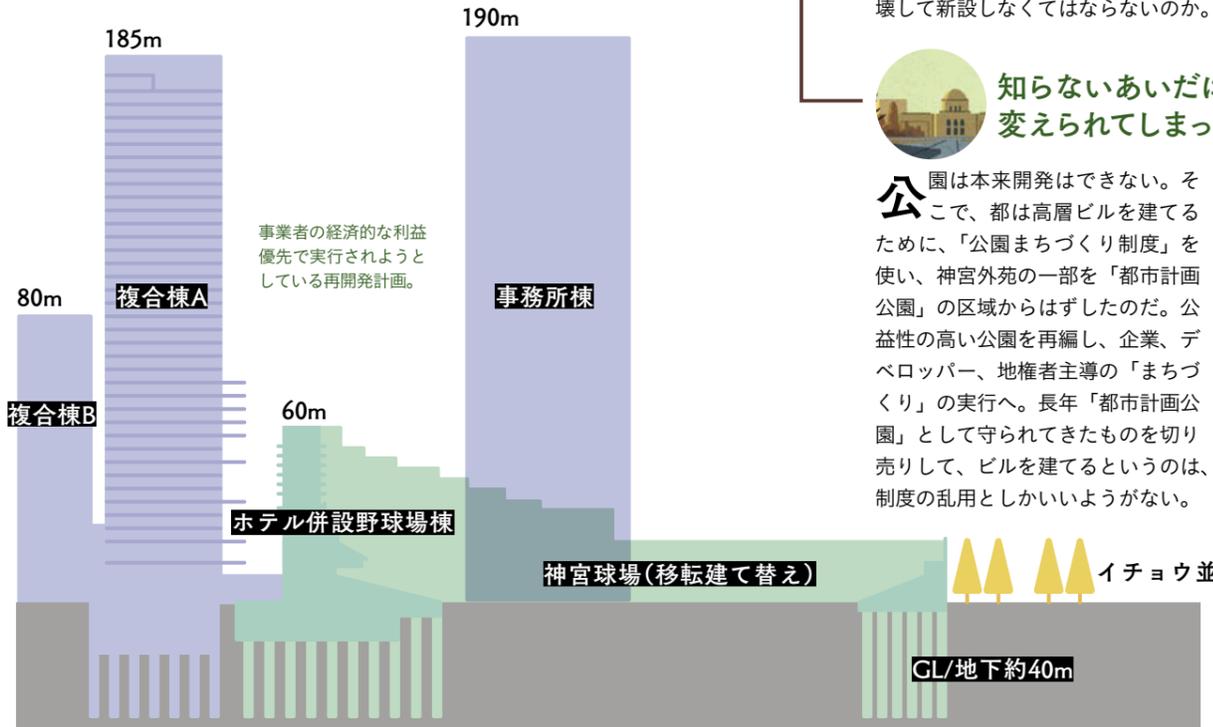


知らないあいだに制度が変更されてしまった

公園は本来開発はできない。そこで、都は高層ビルを建てるために、「公園まちづくり制度」を使い、神宮外苑の一部を「都市計画公園」の区域からはずしたのだ。公益性の高い公園を再編し、企業、デベロッパー、地権者主導の「まちづくり」の実行へ。長年「都市計画公園」として守られてきたものを切り売りして、ビルを建てるというのは、制度の乱用としかいいようがない。



創建当時の神宮外苑



図/断面図(東京都環境局)より加筆

署名の手順はこちらから！



ロッシェル・カップさんのオンライン署名



フェイスブックページ「神宮外苑の緑と空と」

神宮外苑の再開発を見直そう——まず、署名にご協力ください！

ニュースレター『外苑フューチャー』ではイラスト、WEB制作など、サポートして下さる方を必要としています。ご協力いただける方は gaien.future@gmail.com 連絡ください。